

# テキストマイニングによる看護専門領域別実習に関する研究動向の分析

医中誌データベースの  
1980年から2007年までの  
タイトルの分析

加藤千佳

(昭和大学大学院保健医療学研究科  
地域・在宅ケア・マネジメント領域)

# 内容

- 1: 現状
- 2: 研究目的
- 3: 研究対象
- 4: 分析手順
- 5: 分析結果
- 6: 考察
- 7: 終わりに
- 8: 参考文献



# 看護学実習の現状

- 我が国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢化の進展、医療技術の進歩によって大きく変化してきており、看護師はこれまで以上に患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められる。
- 一方、質の高い看護師を育成するために必要不可欠な臨地実習の場では、学生を指導する看護師の業務の複雑・多様化、また患者の医療安全に関する意識の向上などにより、十分な実習が実施できないことが予測される。

# 看護実戦能力と就職後のキャリア

- 学生が臨地で十分な実習ができないことは、卒業時の看護実践能力の低下につながる。このことにより、就職後に看護実践に自信が持てず不安の中で業務を行うことが予測され、新卒者の中にはリアリティショックを受ける者や、高度な医療を提供する現場についていけず早期離職する者が増え、看護師不足が一層深刻化することが考えられる。このような社会的背景から、看護基礎教育における臨地実習の効果的な教育方法の構築が望まれる。



# 用語の説明1: 看護基礎教育とは

- 看護学教育の目的は、学問としての知識や教養だけでなく社会に看護職として安全なケアを提供できる看護技術を習得することを目的としている。
- 看護基礎教育は「基礎看護学」「母性看護学」「成人看護学」「精神看護学」「在宅看護学」「小児看護学」「老年看護学」7つの専門領域から構成され、それぞれで臨地での実習を実施している。

# 用語の説明2: 看護師に必要な看護技術



- 看護過程(概念)
- コミュニケーションの技術(人間関係形成)
- ヘルスアセスメントの技術(健康歴の聴取とフィジカルアセスメント)
- 生活行動援助技術
- 診療における援助技術(薬物療法の援助、酸素吸入、吸引)
- 教育、指導の技術
- 倫理的意思決定(倫理的判断と対応方法)
- 対象者のパワー(セルフケア)を強くする技術(エンパワメント)
- 医療チームの中心としての調整(社会資源の紹介を含む)

## 用語の説明3:看護基礎教育の7つの専門領域(1)

- **基礎看護学(fundamentals of nursing)**  
看護学の基礎となる看護の概念・理論・倫理・歴史と看護実践の基礎的技術を追求する教育・研究分野である。
- **母性看護学(maternity nursing)**  
母性看護の対象は、妊娠・分娩・産褥だけでなく女性の一生に関する保健の問題も加えあらゆる人づくりの基礎をなす母性について知識と技術を追求する看護学である。
- **精神看護学(psychiatric and mental health nursing)**  
人間の精神にかかわる看護を対象とし、あらゆる人々の心の健康を目指す看護実践を導く知識と技術を追求する看護学である。
- **成人看護学(adult nursing, nursing care of adult patient)** 成人を対象とした、内科系・外科系の看護学である。

## 用語の説明3: 看護基礎教育の7つの専門領域(2)

- **小児看護学(pediatric nursing)**

新生児・乳児・幼児・学童・思春期の小児を対象であり、看護の要素には育児・教育・保護者への指導・援助などを追求する看護学である。

- **在宅看護学(home care nursing)**

地域で生活している疾病や障害を持つ人(高齢者などの身体機能の低下した人、虚弱老人やターミナル期の患者を含む)やその家族を対象にした援助・技術を追求する看護学である。

- **老年看護学・老人看護学(geriatric nursing)**

高齢者に対する看護活動とその知識を追求する看護学である。



2002 看護学学習辞典 学習研究社

2002 看護学大辞典 メヂカルフレンド社



# 実習に関わる用語についての 定義

- **看護学実習**

看護学生自身が、いろいろな教材や道具、装置を使って作業し、そこで現実の諸現象や諸過程を追求し、調査するさまざまな活動の総体

- **臨床実習**

病床に臨んで診療する、患者に接して診療治療を行っている現場での看護体験である。臨床現場では「臨地実習」「実習」ということもある。

- **実習指導者**

実習施設の看護師で、学生が受ける看護学実習を効果的にするため、指導・評価を主体的に行う役割を担う人

- **学生**

看護職養成教育機関、大学・短期大学・専修学校（高等課程・専門課程）に通う者

平成19年度版 看護六法

杉森みど里 舟島なをみ2004 看護教育学 医学書院

# 研究の目的

看護学実習は卒業時の看護実践能力を向上するための重要な取組みの一つであり、看護基礎教育において大きな役割を担う。そこで本研究では、効果的な看護学実習を構築するための第一歩として看護学実習における研究動向について以下の3点から明らかにすることを目的とする。

- ①看護学実習に関する研究動向を医学中央雑誌から明らかにする。
- ②看護基礎教育は、7専門領域から構成されているため、特に研究数が多い領域に焦点を当ててその領域別特徴について明らかにする。

# 方法① 研究対象＝医学中央雑誌

医中誌とは「医学中央雑誌」の略で、日本国内発行の医学、薬学、歯学及び看護学、獣医学などの関連分野や大学の紀要、研究報告など、定期刊行物約4700誌から、約560万件の文献を収録した医学文献データベースである。

## 方法②

本研究では日本の看護学実習における学生指導の論文に関して医中誌データベースによる1980年から2007年までの26年間に発表された論文の書誌データ(=題目)をテキストマイニングソフトText Mining Studio Ver 3.12により分析する。医中誌のアドバンスド・モード(Advanced mode)で1983年～2007年の間の文献を対象として、看護\*実習+原著論文、会議録の条件式で検索を行った。

# 医中誌アドバンスモードによる検索結果

検索式・	件数
• #1 (看護 or 看護)	292,546
• #2 実習	17,250
• #3 #1 or #2	10,648
• #4 #3and原著論文、会議録	8276

最終の検索件数

# 「看護＊（実習＋原著論文・会議録）」 検索結果

- 医中誌のアドバンスモード(Advanced mode)で1983年～2007年の間の文献を「看護＊（実習＋原著論文・会議録）」の条件式で検索した結果総論文数は8,275件であり、総文数は8,275件であった。



# 表1 テキストの基本情報

項目	値
総行数(論文数)	8,275
平均行長(文字数)	24
総文数	8287
平均文長(文字数)	24
述べ単語数	52797
単語種別数	11483

# 発行年

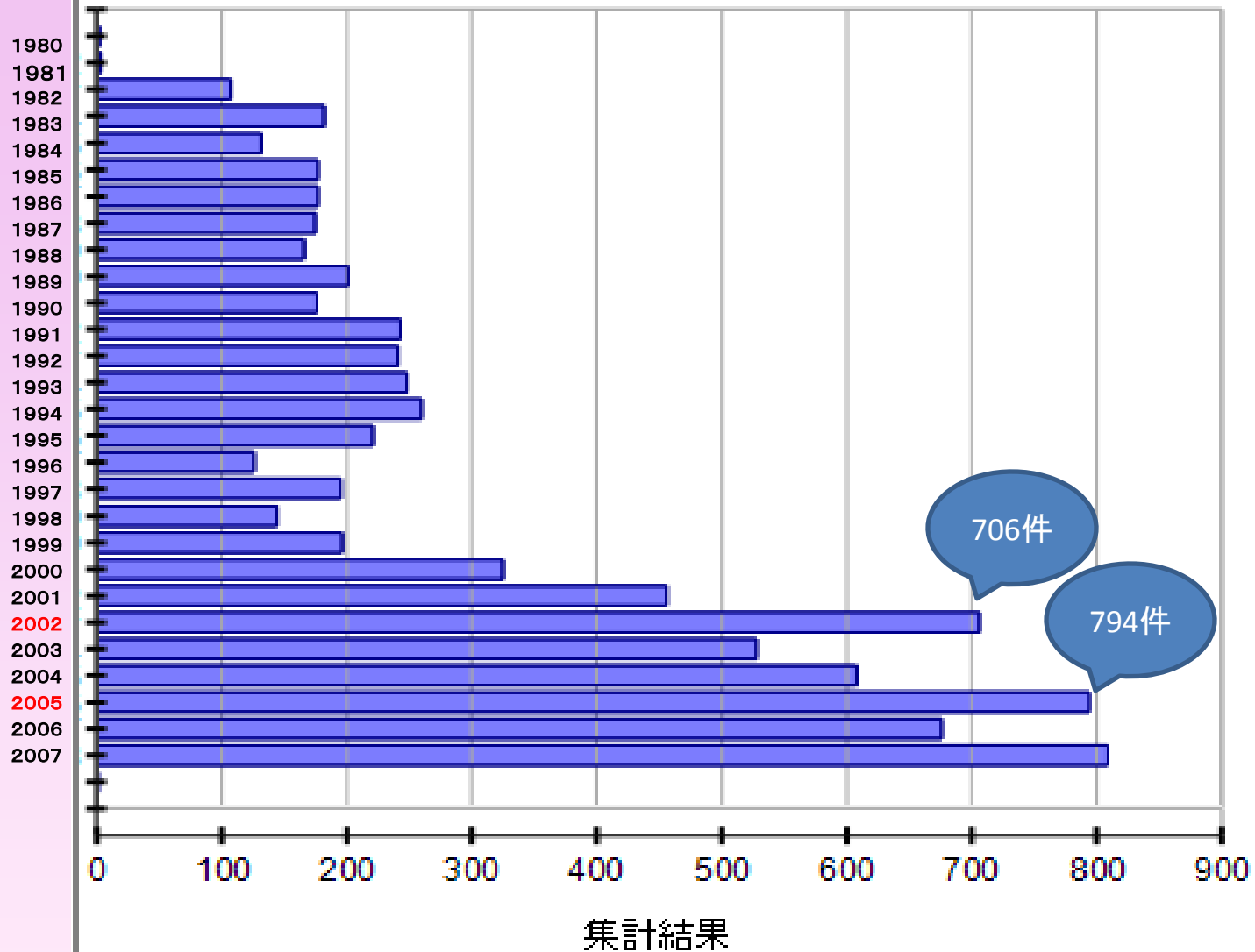


図1 各年毎の論文数



# 図1 各年毎の論文数 結果

- 年代別発表数では看護実習に関する研究が1996年に一旦落ち込んだが、2001年456件、2002年には706件、2005年には794件と看護教育研究の増加傾向がみられた。





## 図2 総論文の単語頻度 結果

- 単語頻度解析で抽出条件を「上位30件」として検索した結果から、単語フィルタで「みる」「学ぶ」という動詞を除外して、再度「上位20件」を検索した。
- 単語頻度解析では論文抽出に関する検索式において「看護・学生」としている関係もあり「学生」を対象としているものが1828件であり、「実習」1744件、「分析」675件の次に「検討」497件、「変化」382件、「学ぶ」352件が関係していることがわかる。

# 「実習」の単語頻度の結果

- 実習に着目すると「実習」1828件「臨床実習」638件「臨地実習」579件でている。原文参照すると「看護学生の臨地実習における経験と感染対策に対する意識への影響。」という専門領域に分かれていない論文と「基礎看護学臨地実習での学生の体験と認識についての検討。」という専門領域に分かれている論文が含まれていた。

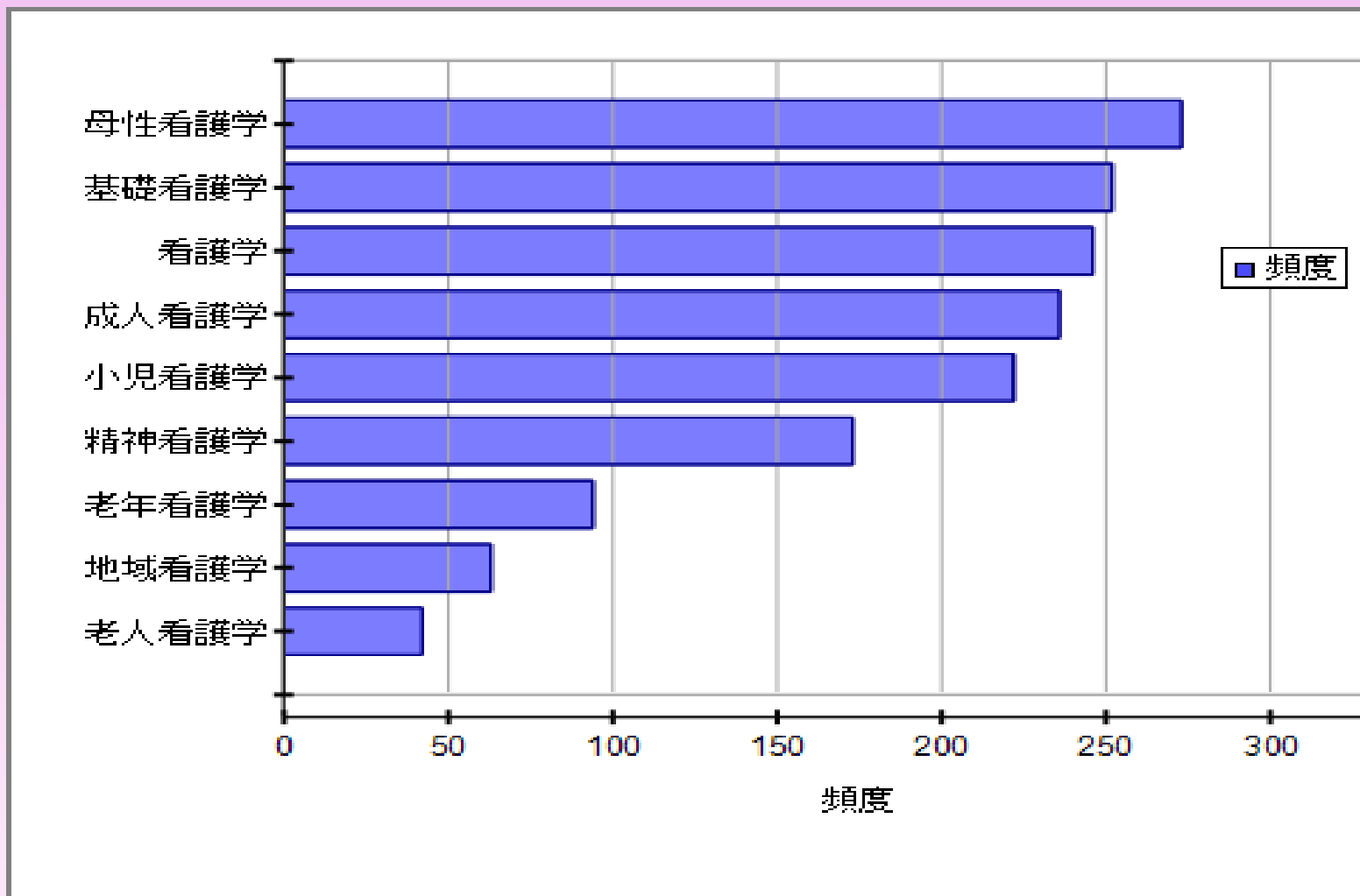


図3「看護学」に着目した単語頻度10以上

単語	品詞	頻度
母性看護学	名詞	273
基礎看護学	名詞	252
看護学	名詞	246
成人看護学	名詞	236
小児看護学	名詞	222
精神看護学	名詞	173
老年看護学	名詞	94
地域看護学	名詞	63
老人看護学	名詞	42

表2「看護学」単語頻度数

# 図3・表2「看護学」の単語頻度 結果

- 看護学と実習に関する研究の中で「専門領域である看護学実習」についてさらに動向を分析するため、単語頻度解析単語フィルタで「看護学含む・看護学生含まない・看護学科含まない」単語頻度10回以上とし単語頻度解析を行った。
- 単語頻度分析・「看護学」の単語頻度総数では「母性看護学」が273件、「基礎看護学」252件、「看護学」246件「成人看護学」236件、「小児看護学」222件、「精神看護学」173件、「老人・老年看護学」136件、「地域看護学」63件となっている(表2)。

# 「看護学」

- 単語頻度解析結果から、専門領域別にみた総論文数の比較を行うことができた。
- 256件「看護学」では原文から「看護学実習の現地看護実践への影響と要因。」や「看護学教育における解剖学実習の実際」のように、看護学臨床実習を領域別に分けていない論文や臨地実習というより基礎医学系実習に焦点をあてた研究がおこなわれていた。





単語	1980	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07
母性看護学	0	0	1	4	7	4	4	12	4	6	6	5	10	2	10	4	3	5	3	6	19	27	30	18	21	20	18	24
基礎看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	3	1	4	8	9	14	10	28	21	31	46	37	33
看護学	0	0	3	5	3	2	1	2	4	3	2	3	3	2	4	11	7	5	5	8	4	11	25	20	30	24	27	32
成人看護学	0	0	3	3	1	3	5	7	8	7	4	2	6	4	5	3	1	4	1	3	7	9	27	15	19	26	31	32
小児看護学	0	0	1	4	0	4	4	3	4	4	1	4	3	6	5	8	2	4	3	5	17	15	25	15	19	27	21	18
精神看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	2	0	0	0	4	5	11	13	25	23	18	28	15	23
老年看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	10	10	13	11	15	11	18
地域看護学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	1	2	0	1	0	1	3	3	2	7	10	4	12	12
老人看護学	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	4	7	7	0	1	0	2	1	3	1	2	0	4	1	3	0

表3「看護学」年間単語頻度数

赤文字は80～07年の各分野においてもっとも多く表れた件数を示す

# 図4・表3にみられる「看護学」 の単語頻度解析結果

- 「看護学」単語頻度解析では、看護学の研究が2002年に「母性看護学」30件、「基礎看護学」28件、「看護学」25件、「成人看護学」27件「小児看護学」25件、「精神看護学」25件、「老年・老人看護学」12件、「地域看護学」2件であり、前年の2001年と比較すると「老年・老人看護学」「地域看護学」以外の5領域で10件以上の論文数増加が認められた。

# 5つの看護学の分野

- 「看護学」単語頻度解析の結果から看護学実習の研究の中で専門領域別看護学実習の動向を分析するために、特に研究されている

「看護学」を除いた「専門領域」の「基礎看護学」「小児看護学」「母性看護学」「成人看護学」「精神看護学」の5領域について焦点を当てる。

# 専門領域のフィルタリング

- テキスト基本情報から論文のタイトルに専門領域(〇〇看護学)が用いられているものは、とくにその分野に特化した論文であると考え、各分野ごとにフィルタリングを行った。
- 「看護学」は、ある分野について書かれた可能性があるものの、看護学基礎教育全般にわたって述べられた可能性がありタイトルだけでは判別できないため除外した。



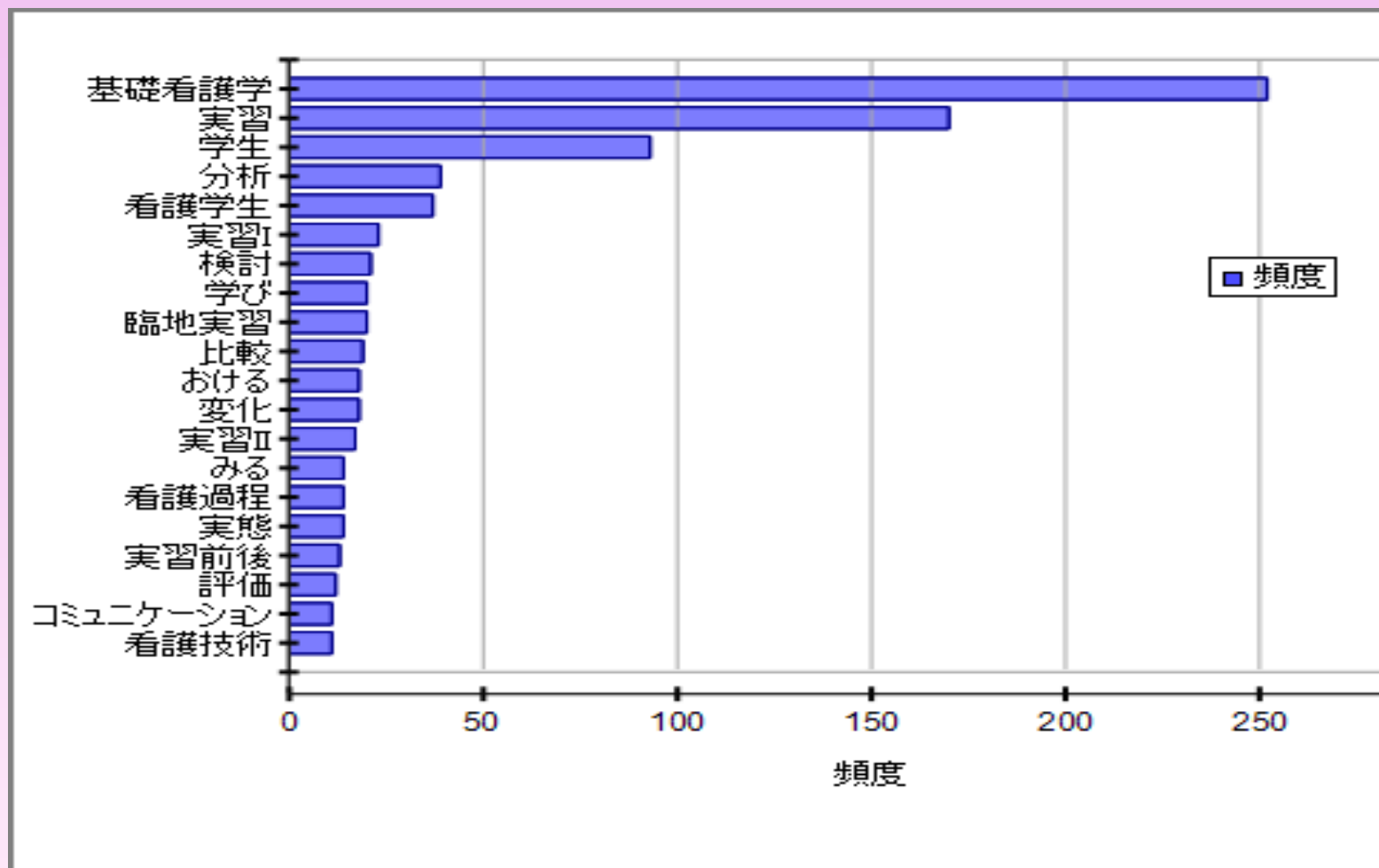


図8単語頻度解析(基礎看護学)

# 図8における「基礎看護学」 の単語頻度の解析結果

- 単語頻度解析で抽出条件を5回以上「上位30件」として検索した結果から、単語フィルタで「みる」「学ぶ」という動詞を除外して、再度「上位20件」を検索する。
- 基礎看護学の単語頻度解析では「基礎看護学」252件「実習」170件である。
- 基礎看護学の特徴として「コミュニケーション」が11件出現しており、原文では、「基礎看護学実習IIで体験した看護学生の思い患者とのコミュニケーションを通して」という論文がみられた。

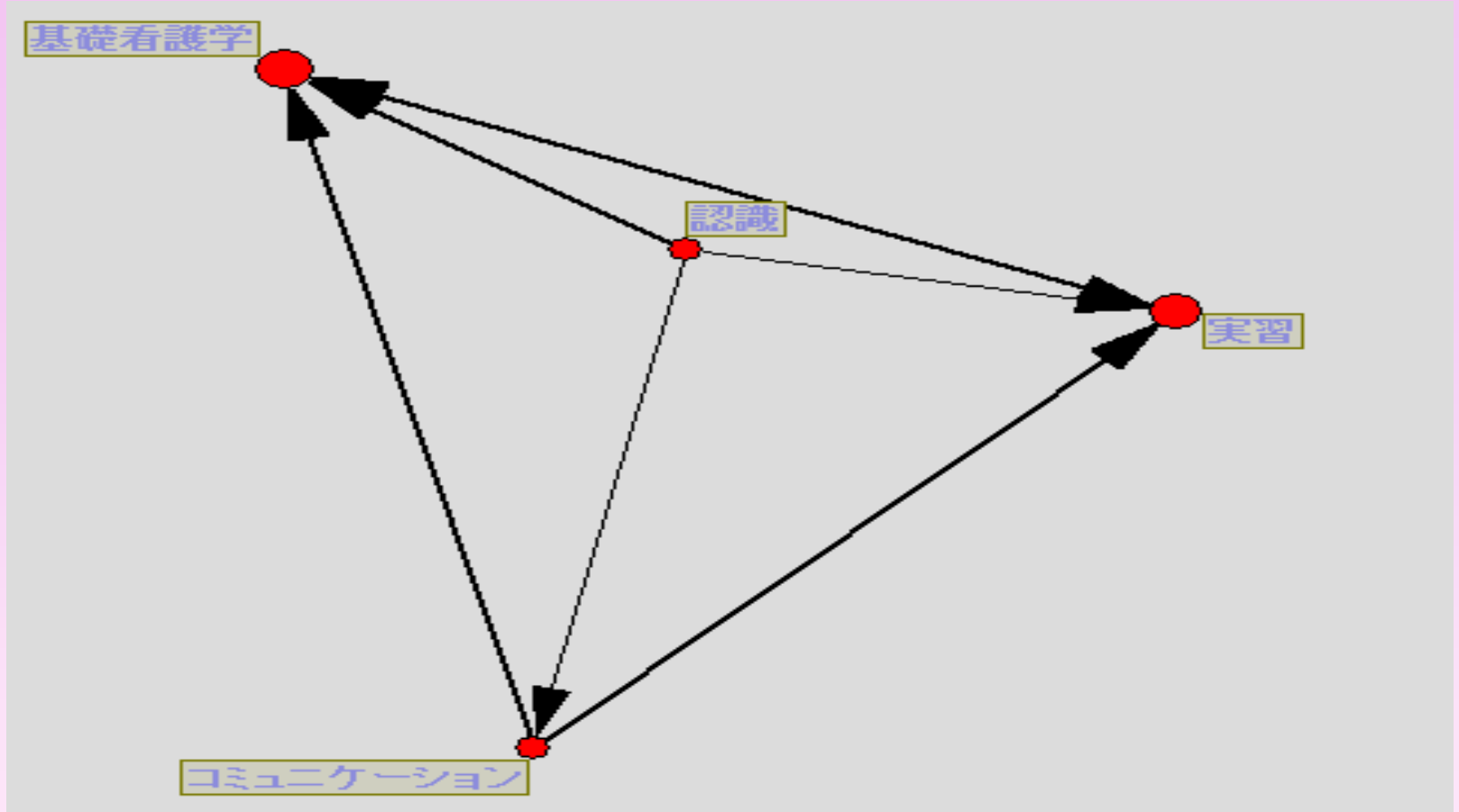


図9「基礎看護学」注目語「コミュニケーション」



# 図9における注目語情報 「コミュニケーション」結果

- 注目語情報では「コミュニケーション」に注目し、最低信頼度40・出現回数2回以上として行う。
- 結果、基礎看護学にはコミュニケーションと「**認識**」「**実習**」「**患者**」「**学生**」が結ばれている。

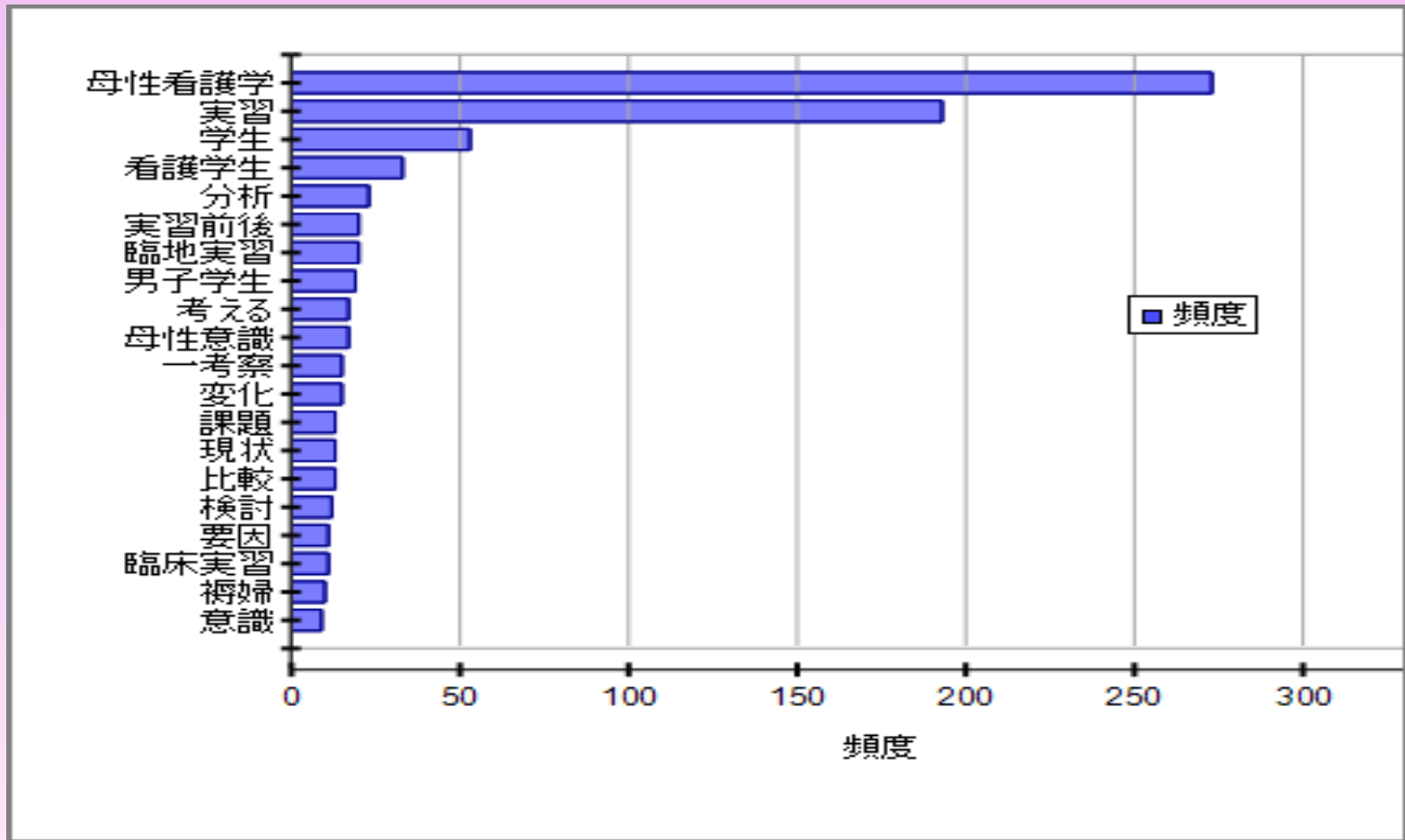


図10 単語頻度解析(母性看護学)

# 図6における「母性看護学」 の単語頻度の解析結果

- 抽出条件を5件以上とし、母性看護学における単語頻度解析を行う。
- 母性看護学の単語頻度では「母性看護学」273件「実習」193件「学生」53件である。
- 母性看護学の特徴として「男子学生」が11件出現しており、原文では「母性看護学実習で褥婦を受け持つ男子学生の気持ち」という論文がみられた。



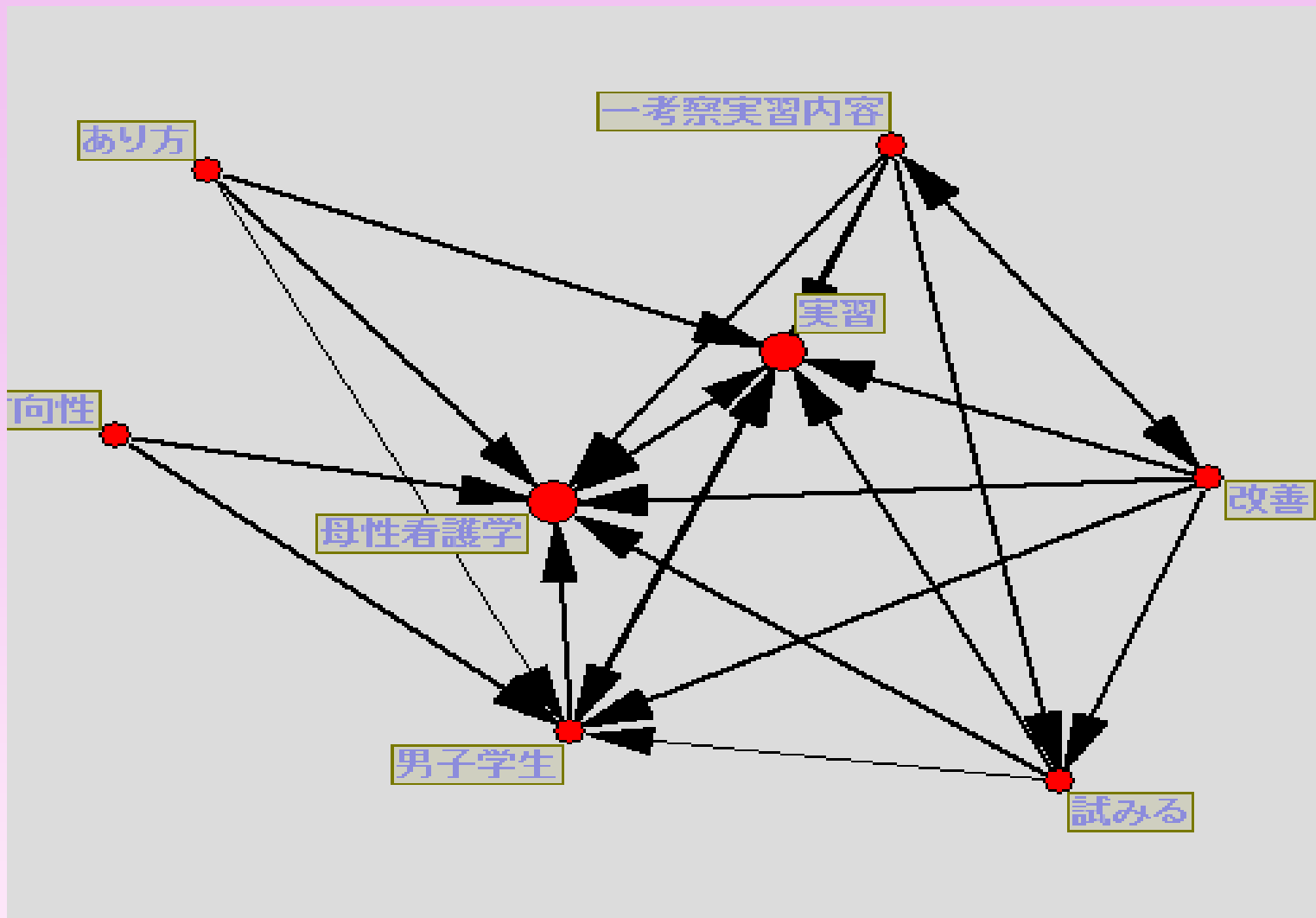


図11「母性看護学」の注目語「男子学生」

# 図10における注目語情報 「男子学生」結果

- 注目語情報では「男子学生」に注目し、最低信頼度50・出現回数2回以上として行う。
- 結果、母性看護学実習には男子学生と「あり方」「試み」「新カリキュラム」「方向性」「改善」が結ばれている。

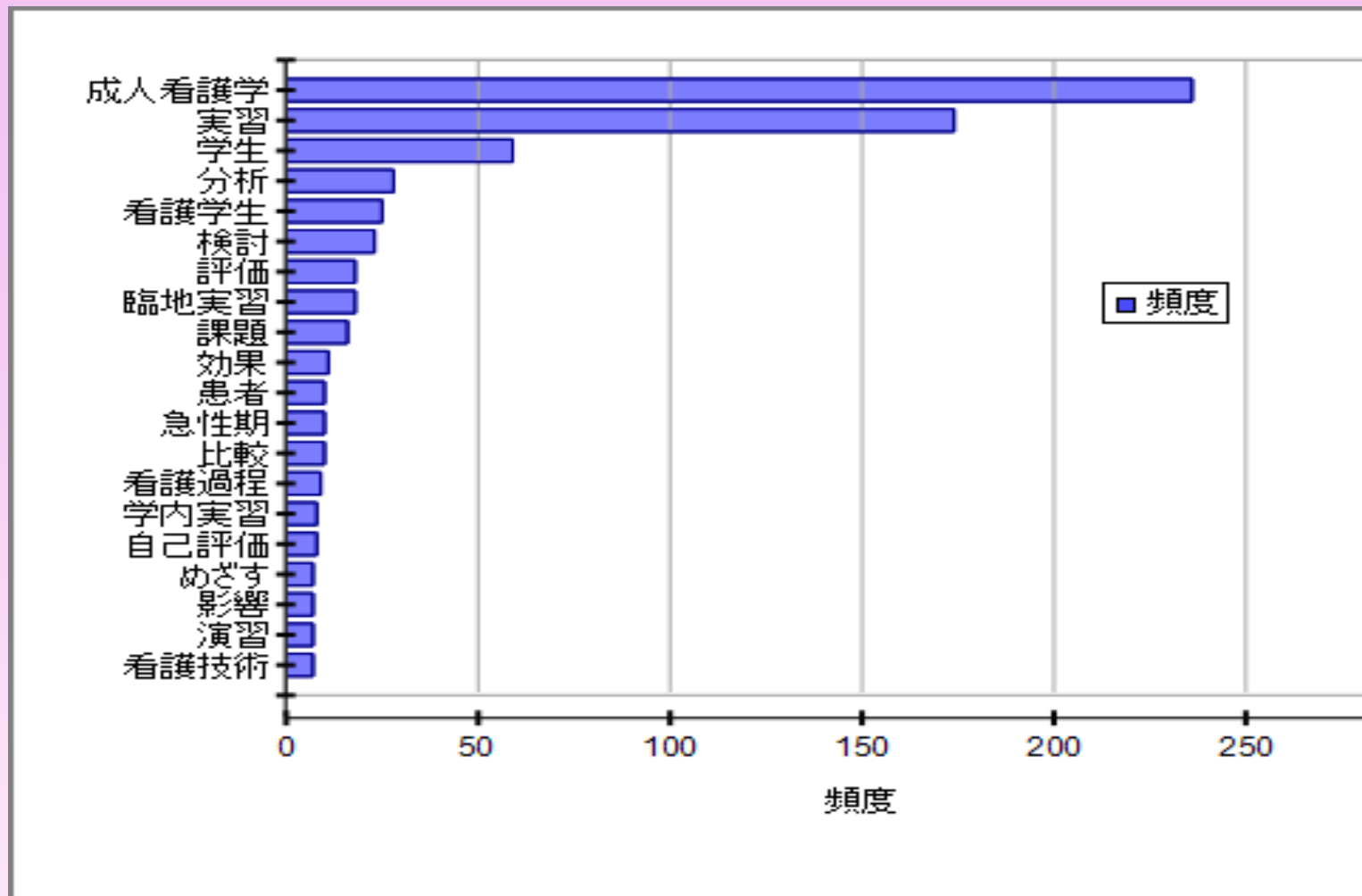


図12単語頻度解析(成人看護学)

# 図12における「成人看護学」 の単語頻度の解析結果

- 抽出条件を頻度5回以上とし、成人看護学における単語頻度解析を行う。
- 結果、成人看護学実習の特徴として「看護技術」が7件出現している。原文から「成人看護学急性期領域の実習における看護技術教育の検討：学生が経験した看護技術の内容から。」という論文がみられた。
- 成人看護学実習の中で急性期の実習に焦点を当てた論文が独立して10件みられた。

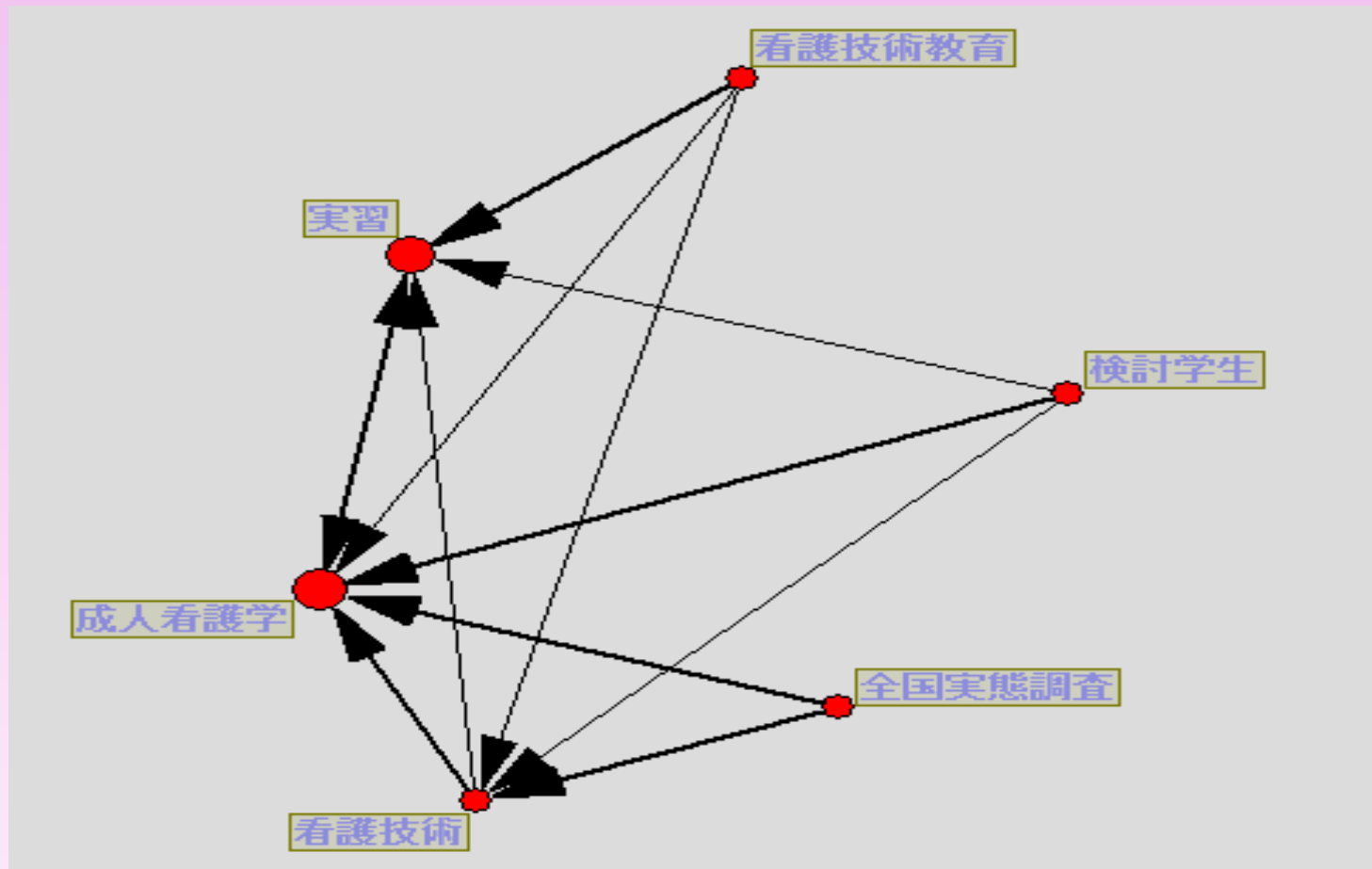


図13「成人看護学」の注目語「看護技術」



# 図13における注目語情報 「看護技術」結果

- 注目語情報では「看護技術」に注目し、最低信頼度50・出現回数2回以上として行う。
- 結果、成人看護学実習には看護技術と「**実習**」「**看護技術教育**」「**検討**」が結ばれていることが確認できた。



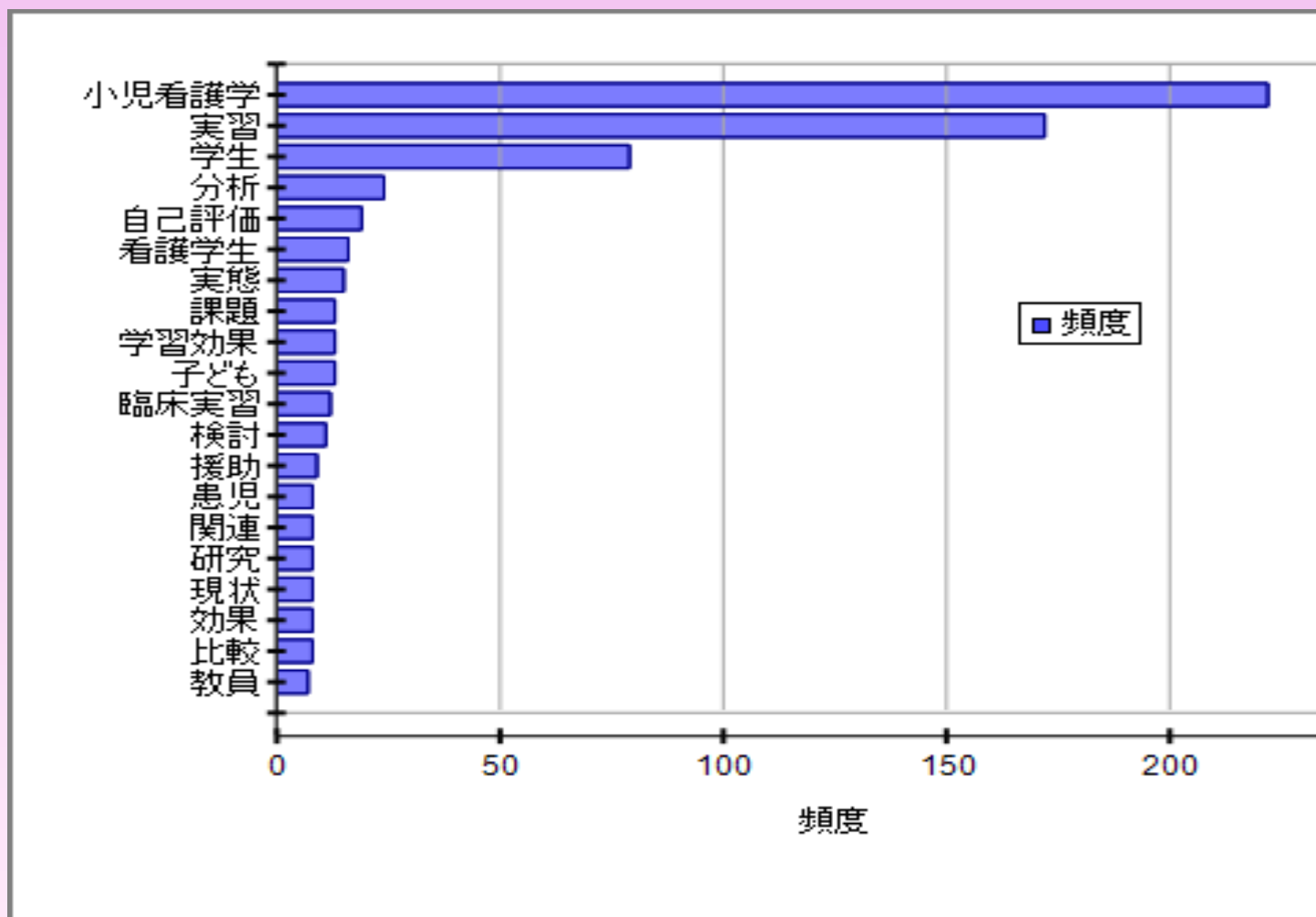


図14単語頻度解析(小児看護学)

# 図14における「小児看護学」 の単語頻度の解析結果

- 抽出条件を頻度5回以上とし、小児看護学における単語頻度解析を行う。
- 結果、小児看護学では患者を示す「患児」以外に対象となる「子ども」という言葉が13件出現している。原文から、「子どもとの相互作用を深めるための指導方法小児看護学実習で作成した流れ図を通して。」という論文がみられた。

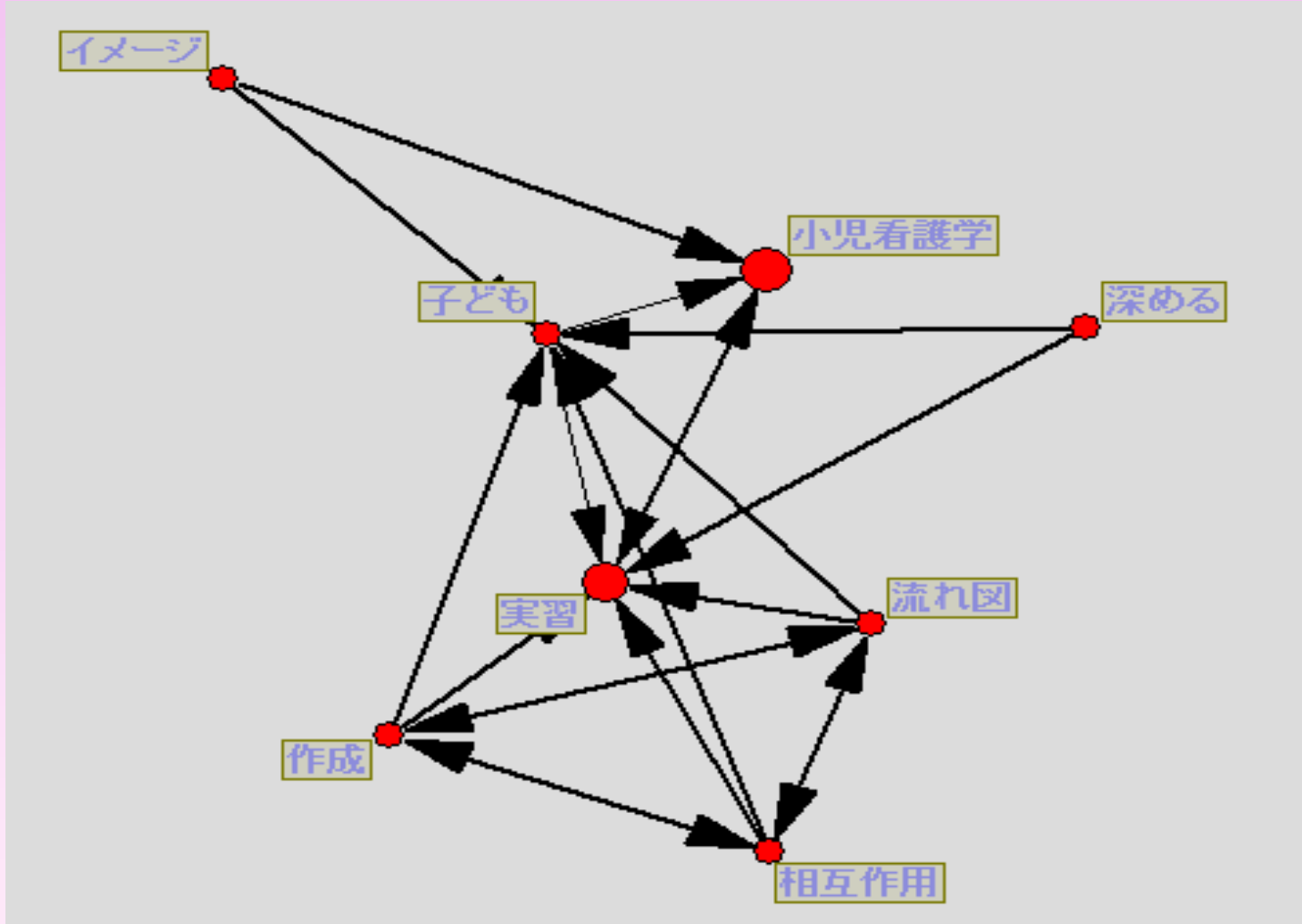


図15「小児看護学」の注目語「子ども」<sup>44</sup>

# 図15における注目語情報 「子ども」結果

- 注目語情報では「子ども」に注目し、最低信頼度40・出現回数2回以上として行う。
- 結果、小児看護学実習には子どもと「**深める**」「**イメージ**」「**相互作用**」「**作成**」「**実習**」が結ばれていることが確認できた。

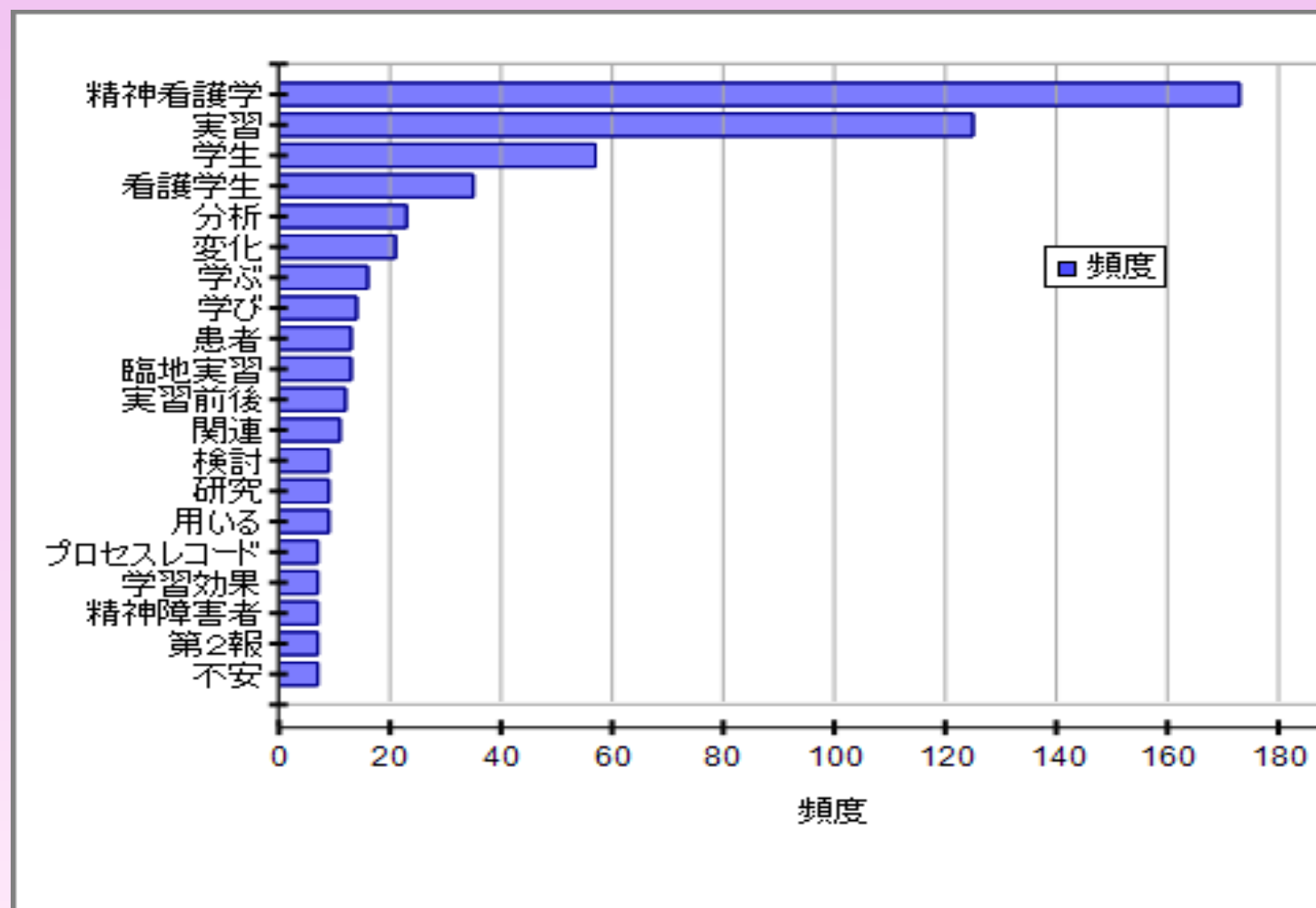


図16単語頻度解析(精神看護学)

# 図16における「精神看護学」 の単語頻度の解析結果①

- 抽出条件を頻度5回以上とし、精神看護学における単語頻度解析を行う。
- 精神看護学の特徴は「精神障害者」という言葉が出現していることである。原文では「本学学生の精神看護学実習前後の精神障害者イメージの変化に関する一考察。」という論文がみられた。

# 図16における「精神看護学」 の単語頻度解析結果②

- 単語頻度解析結果から、プロセスレコードという単語が7件出現している。
- プロセスレコードとは、看護においてある一場面の患者の行動と看護師の行動・考察したことなどをありのままに経時的に記録したものであり、「精神看護学」において特徴的な単語の一つである。



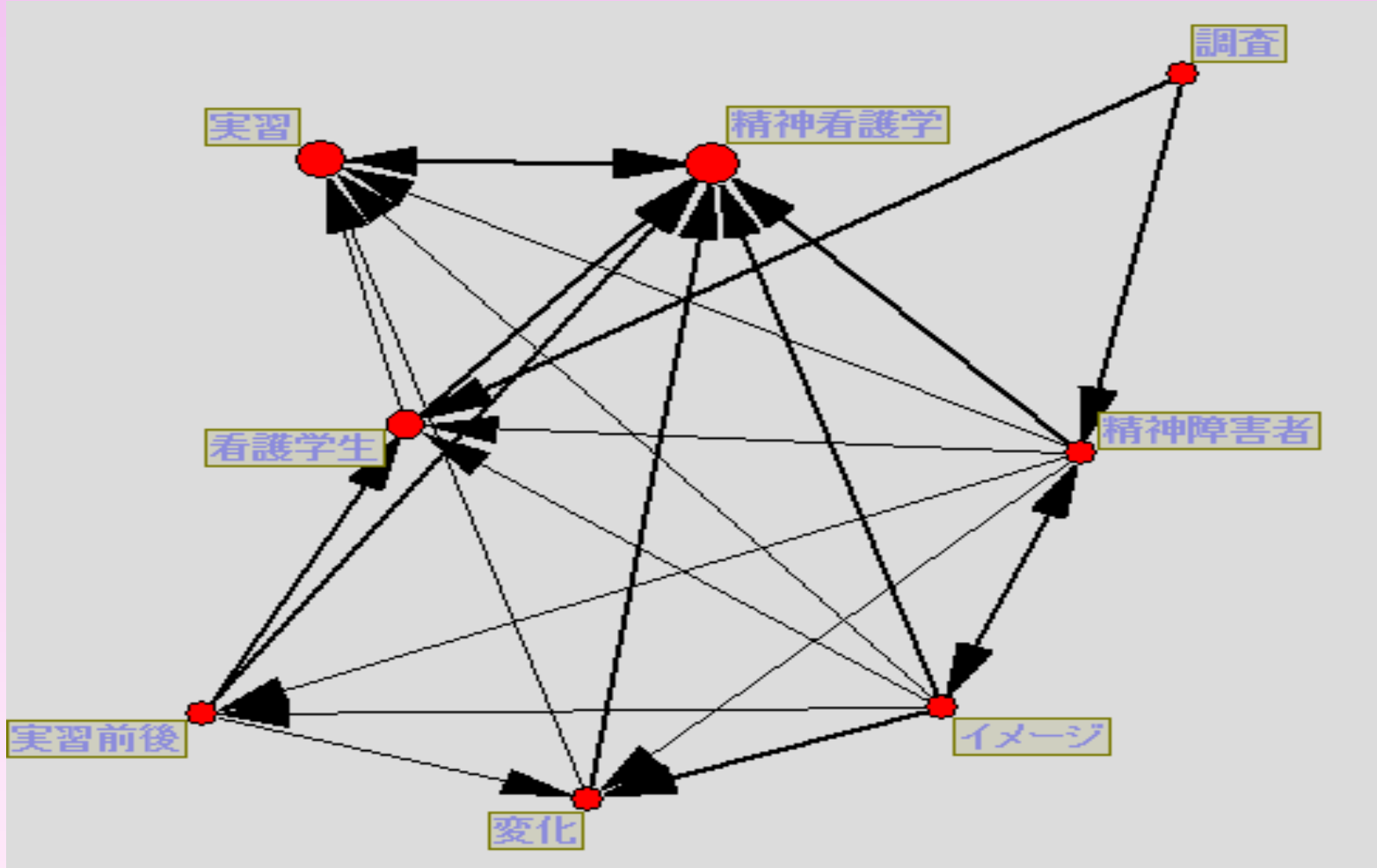


図17「精神看護学」の注目語「精神障害者」

# 図17における注目語情報 「精神障害者」結果

- 注目語情報では「精神障害者」に注目し、最低信頼度40・出現回数2回以上として行う。
- 結果、精神看護学実習には看護技術と「**実習**」「**看護技術教育**」「**検討**」が結ばれていることが確認できた。

# 研究数の経時的変化

- 看護学実習に関する研究の動向は(図1)の結果から、2002年より研究数が増加していることが判明した。
- 看護基礎教育の7専門領域は(図4・表3)の結果から、2001年から2002年にかけて研究論文数の数が「老年・老人看護学」「地域看護学」以外の5領域で10件以上増加していることが明らかになった。

# 5つの看護領域の特徴①

- 論文数が多い専門領域である「基礎看護学」「成人看護学」「母性看護学」「精神看護学」「小児看護学」に焦点を当てた(図3・表2)。
- 「基礎看護学」では特徴的に「コミュニケーション」という単語が出現し「認識」「実習」という言葉が結ばれていることが確認できた(図8・図9)。
- 「母性看護学」では特徴的に「男子学生」という単語が出現し「認識」「実習」「患者」「学生」が結ばれていることが明らかになった。(図10・図11)

## 5つの看護学領域の特徴②

- 「成人看護学」では、特徴的に「看護技術」という単語が出現し、「実習」「看護技術教育」「検討」が結ばれていることが判明した(図12・図13)。
- 「小児看護学」では、特徴的に「子ども」という単語が出現し、「深める」「イメージ」「相互作用」「作成」「実習」が結ばれていることがわかった(図14・図15)。
- 「精神看護学」では、特徴的に「精神障害者」という単語が出現し「実習」「看護技術教育」「検討」が結ばれていることが確認できた(図16・図17)。

# 考察1：結果の要約

1. 25年間の看護学実習に関する研究論文数の変化をみると2002年より研究論文数が増加傾向にある（図1）。これは2003年に厚生労働省から「看護基礎教育における技術教育の在り方に関する検討会」報告が提示され、看護基礎教育での技術教育の強化と臨地実習の改善が教育機関で認識されたことが背景にあると考える。
2. 看護基礎教育における専門領域別特徴では、図4・表3より注目されている専門領域5分野に焦点を当て分析を行った。今後は、研究論文数の増加がみられる「老人・老年看護学」「地域看護学」にも焦点を当てていきたい。
3. 研究論文数の多い「基礎看護学」「母性看護学」「成人看護学」「小児看護学」「精神看護学」に焦点を当て、5領域の特徴的な言葉が注目されていることが明らかになった。

# 考察2 専門領域別の検証①

## 「基礎看護学」

基礎看護学では図8から、「コミュニケーション」という単語が11件抽出された。原文では、「看護学生の基礎看護学実習前後のコミュニケーションの変化要因。」や「基礎看護学実習における学び:患者とのコミュニケーションに着目して。」のように看護学生が初めて患者とコミュニケーションを行うことに着目した研究が行われていることが明らかになった。現在、看護学生の基本的な生活能力や常識、学力が変化しているといわれコミュニケーション能力を高める教育が必要とされている。平成19年に厚生労働省で行われた、看護基礎教育充実に関する検討会「基礎分野」でもコミュニケーション能力を高めることが提言された。このような背景から、看護基礎教育のもっとも基本となる基礎看護学で「コミュニケーション」能力育成を重要課題としてとらえ、その育成のための研究がおこなわれていることがわかった。

## 考察2 専門領域別の検証②

### 「母性看護学」

母性看護学では図10から、「男子学生」という単語が11件抽出された。原文では「母性看護学実習で褥婦を受け持つ男子学生の気持ち」や「男子学生の母性看護学実習における困難：今後の母性実習のあり方を考える。」のように、「男子学生」が母性看護学実習で受け持つ患者への気持ちや困難に着目した研究がおこなわれていることが明らかになった。現在、産婦人科病棟および分娩数の減少に伴い母性看護学実習で、分娩見学などを行うことが難しい現状がある。特に、男子学生は、母性看護学実習で受け持つ患者が異性であることから受け持ちを拒否されるなど実習が困難な状況がうかがわれる。そのため、母性看護学実習の経験不足が予測されることから、「男子学生」に対する母性看護学実習の改善を検討し方向性を見出すための研究がおこなわれていることが示唆された。



## 考察2 専門領域別の検証③

### 「成人看護学」

成人看護学では図13から、「看護技術」という単語が7件抽出された。「成人看護学」は看護師国家試験出題基準の中で、看護技術に関する項目数が多い。そのため、特徴的に「看護技術」が注目されていることがうかがわれる。

また、成人看護学では慢性期の対象を受け持つ看護学実習と急性期・回復期の患者を受け持つ看護学実習に大きく2分類される。単語頻度解析結果では、「急性期」という単語が10件抽出されており、「慢性期」という単語は3件であった。「慢性期実習」では患者の教育や指導という役割があり論文名に慢性期実習という言葉を使用しないことが考えられ、急性期、慢性期など健康レベル別実習の研究動向の分析は今後の課題である。

## 考察2 専門領域別の検証④

### 「小児看護学」

小児看護学では図14から、「子ども」という単語が13件抽出された。他領域より多く抽出されたのが「教員」という単語であった。小児看護学では対象となる子どもの年齢がさまざまであることや、母親とのコミュニケーションが必要であるなど、子供と家族を対象にした実習になるため、子どもの理解や家族との関係構築をするために教員や他者のサポートが必要であることがうかがえる。

### 「精神看護学」

精神看護学では図16から、「精神障害者」という単語が7件抽出された。原文から「精神看護学実習を通しての精神障害者に対するイメージの変化。」のように、看護学生が実習を行う前後で精神障害者に対するイメージ変化に着目した研究が行われていることが明らかになった。このような研究が行われている背景には、学生が実習前に精神に障害をもった対象への先入観や偏見を持つことへの危惧、またその改善方法を見出したいという思いがあると考えられる。

# 考察3 専門領域別の検証まとめ

- 5領域の研究論文には、川村(2009)で指摘されている看護師に必要な看護技術の項目が含まれていたことが明らかになった。
- 領域別でみると「基礎看護学」「成人看護学」では看護過程や看護技術(コミュニケーション含む)、「小児看護学」「精神看護学」では、コミュニケーションの技術や生活行動援助技術に着目していることが明らかになった。「母性看護学」「成人看護学」では、ヘルスアセスメントの技術や診療における援助技術に着目している。
- これらの相違は各領域の対象特性の相違が背景にあると考える。

# 本研究の意義と限界

- テキストマイニングにより、専門領域別の看護実習の研究文献の特徴を明らかにできた。
- 看護基礎教育の7つの専門領域の中で、研究数が多い5領域に焦点を当て分析を行うことができた。しかし、他2領域の分析が十分ではない。そのため基礎看護教育全体の領域別特徴を述べることには限界がある。

# 今後の発展

- 専門領域別に研究動向を検証することにより5領域の専門領域で、看護基礎教育の研究の動向と特徴語を抽出し明らかにすることができた。
- この研究は効果的な看護学実習を構築するための第一歩として位置づけられる。今後は、看護基礎教育の実習に対する諸研究の内容に着目した質的分析もあわせて行っていきたいと考えている。

# 参考文献

- 川村佐和子,志自岐康子,松尾ミヨ子(編)2009  
「基礎看護学」メディカ出版
- 内菌 耕二,小坂 樹徳(偏)2002 看護学大辞典  
メヂカルフレンド社
- 大橋優美子,相川正樹,吉野肇一他(偏) 2002  
看護学学習辞典 学研研究社
- 杉森みど里,舟島なをみ(偏)2004 看護教育学 医学書院
- 服部 昭三(代)平成19年度版 看護六法 新日本法規
- 小松浩子,井上智子(偏)2002 成人看護学総論 医学書院
- 厚生労働省ホームページ  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>
- 昭和大学ホームページ [www.showa-u.ac.jp](http://www.showa-u.ac.jp)